

◆ 今週のコメント

- ・ 風しんの報告が1例あります。本疾患は、本年1月1日に全数把握五類感染症になって以来、初めての報告で、21歳女性、風しんワクチン接種歴は不明です。
- ・ 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例あり、血清型及び毒素型はO157 VT2です。本年の累積報告数は、76例で、平成11年～平成19年の同時期(19～50例)と比較すると、最も多くなっています。

◆ 今週のトピックス:〈RSウイルス感染症〉

- ・ RSウイルス感染症の報告が3例あり、第33週から報告が続いています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- ・ 二類:結核 1例(喀痰塗抹陽性 なし、無症状病原体保有者 なし)
【1月以降の累積報告数 271例(喀痰塗抹陽性 87例、無症状病原体保有者 24例)】
- ・ 三類:腸管出血性大腸菌感染症(O157 VT2) 1例【1月以降の累積報告数 76例】
- ・ 五類:風しん(検査診断例) 1例【1月以降の累積報告数 1例】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ ^a	インフルエンザ ^a	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.22	91
	② 突発性発しん	0.51	21
	③ 手足口病	0.46	19
	④ ヘルパンギーナ	0.32	13
	⑤ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.20	8
	⑤ 流行性耳下腺炎	0.20	8
眼科	流行性角結膜炎	0.70	7

病原体情報

ありません。

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:〈RSウイルス感染症〉

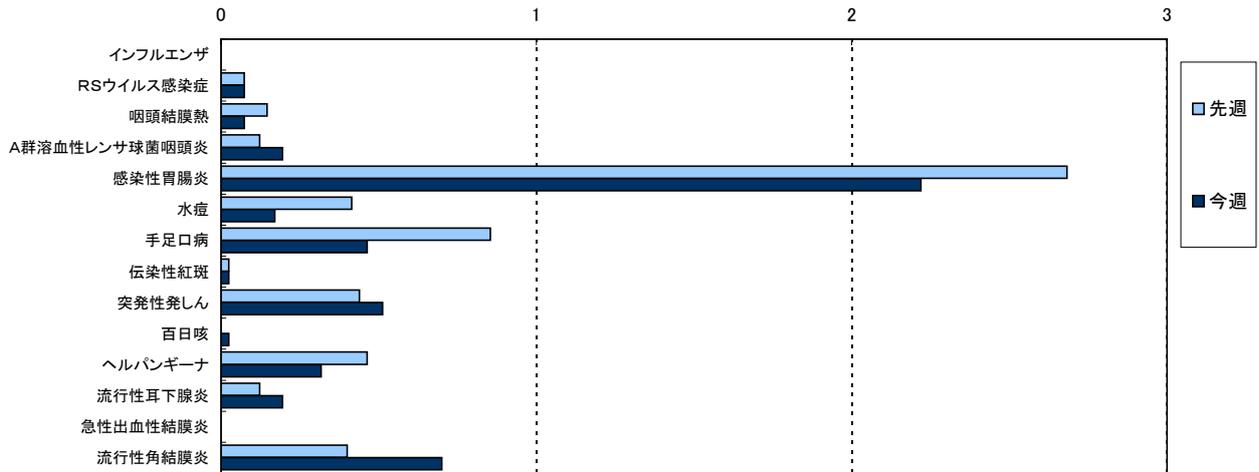
(注)京都市のデータは、平成20年9月26日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。

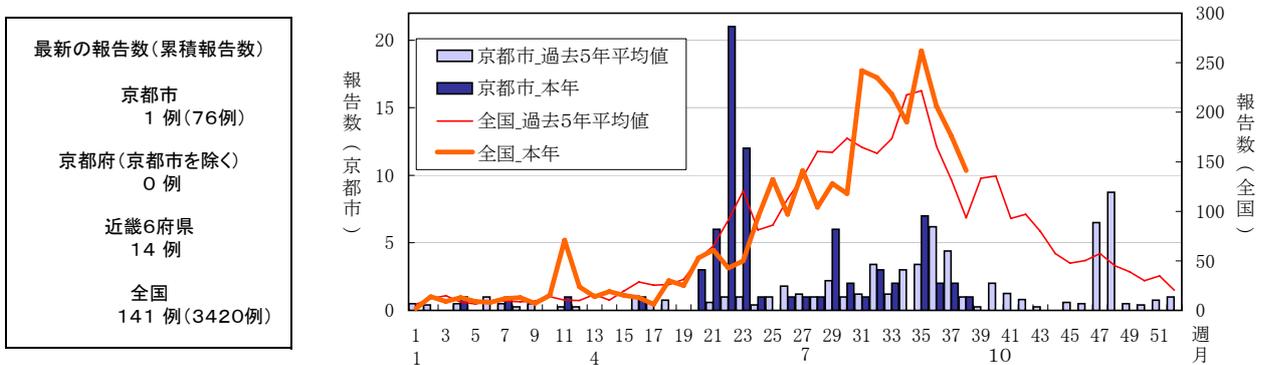
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第38週)と先週(第37週)の定点当たり報告数の比較

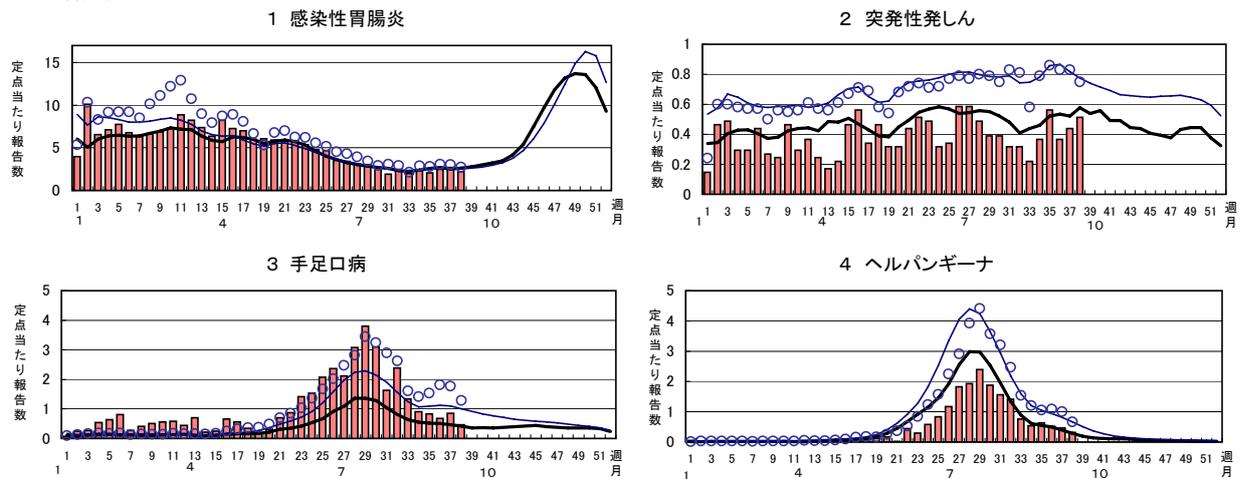


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

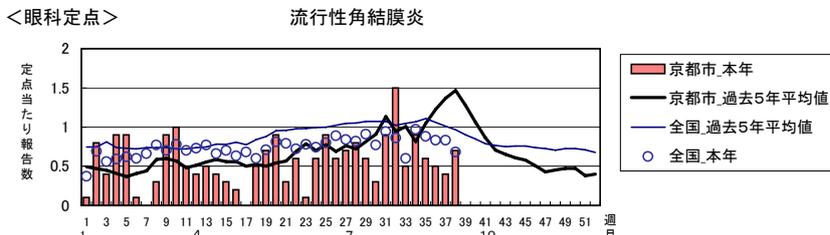


3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



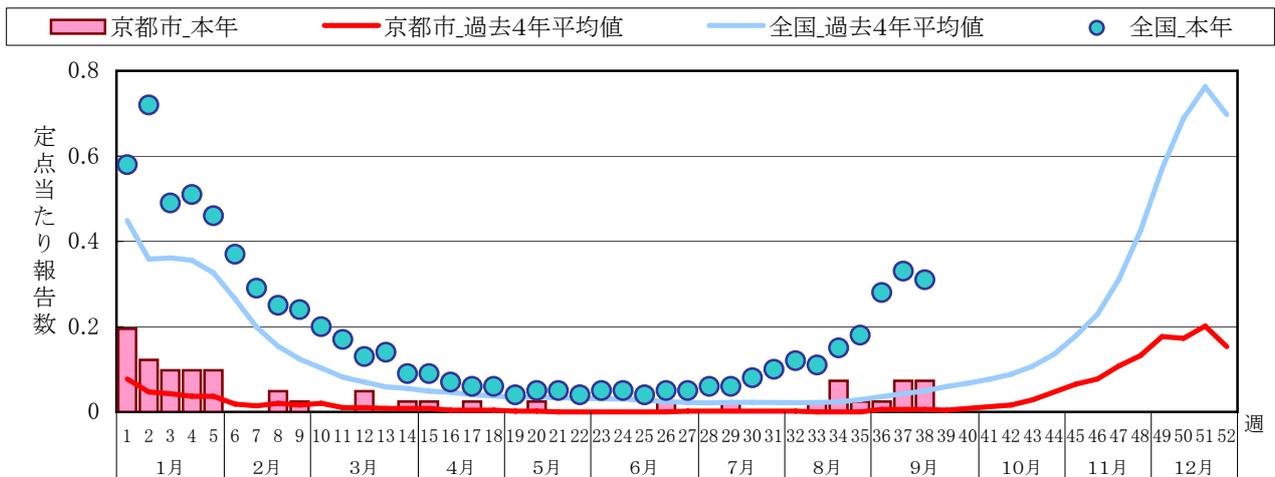
今週(第38週)のトピックス: <RSウイルス感染症>

RSウイルス感染症の報告が3例あり、第33週から報告が続いています。また、今週の3例は、すべて年齢が2歳、行政区が伏見です。

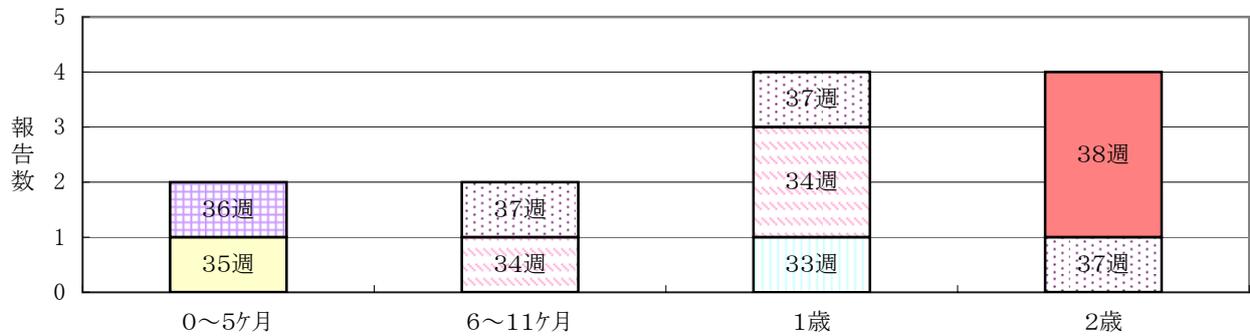
第1週～第38週の定点当たり報告数を見ると、第1週～第5週に続けて報告があり、その後は、断続的に報告されていますが、第33週からは連続して報告されています。また、全国では、例年に比べ早い立ち上がりを示しています。

第33週～第38週の累積報告数を見ると、年齢階級別では、1歳及び2歳が各4例、0～5ヶ月及び6～11ヶ月が各2例で、その他の年齢での報告はありません。行政区別では、東山区及び伏見区が各4例、上京区が2例、中京区及び山科区が各1例で、他の行政区での報告はありません。

定点当たり報告数の推移(平成20年第1週～第38週)



第33週～第38週の年齢階級別累積報告数



第33週～第38週の行政区別報告数(グラフ内の数字は週を表す。)

